

新学習指導要領・生きる力（一部抜粋）

第3章 道徳

第2 内容

道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、次のとおりとする。

（中学校）

地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。

（小学校）

郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

道徳の時間における指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

（中学校）

先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、生徒の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。

（小学校）

先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、児童の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。

第166回 国会 教育再生に関する特別委員会

平成19年5月10日（木）

（一部抜粋）

●北神圭朗 委員

私は、持論として、歴史教育の中でも、伝記とか人物教育とか、そういったものを施していかないといけないというふうに思うんですが、そういう歴史上の人物だけじゃなくて、学校の先生もそうですし、家庭の両親もそうです。家庭内で、やはりお父さんすごいなと、私が思われているかどうかわかりませんが、でも、やはりそういうふうになりたいな。そしたら子供も、親の背中を見て自分も頑張るといような意欲が出てくる。

●伊吹文明 文部科学大臣

私は、例えばワシントンの桜の話だとか米百俵の話だとか、そういう話を先ほど来北神先生もおっしゃったけれども、偉人、いろいろな伝記、あるいは、有名な方ではないけれども、多くの人を救ったというような人のことをずっと書いて、そしてそれを子供に理解させていくということは当然あって構わないし、また、それは積極的にやるべきだと思っています。

8 ヘレン・ケラーが目標に した日本人——塙保己一

自己を見つめ、自己の向上を図る
とともに、個性を伸ばして充実した
生き方を追求しましょう。

◆ヘレンが尊敬した日本人◆

アメリカの教育家・社会事業家のヘレン・ケラー（一八八〇～一九六八）の名前は、世界に広く知られています。目が見えず、耳が聞こえず、話すこともむずかしいという苦難の中で、言葉を覚え、知識を身につけ、二十一歳でみごとハーバード大学附属のラッドクリフ女子大学[※]に入学。その後は、視聴覚に障害を持つ人々に対する偏見や差別をなくすため、アメリカ国内はもとより世界各国で講演を行ったほか、数々の福祉事業の発展に生涯をささげた人です。

では、そのヘレンが、人生の目標として尊敬した日本人がいたことをご存じでしょうか。その人の名は塙保己一。

ヘレンは、その塙保己一について次のように述べています。
「私がまだ小さいとき、母は塙先生のことを、繰り返しこう話してくれました。『ヘレン、日本には、幼いときに失明し、しかも点字も何もない時代に、努力して学問を積み、一流の学者になった塙保己一という人がいたのですよ』と。時にはくじけそうになったこともありましたが、この母の励ましによっ

て、現在の私があるのです」

◆挫折から生まれた大学者◆

ヘレンが目標にしたこの日本人は、どういう人だったのでしょう。

塙保己一は、今からおよそ二百年前の江戸時代後期の国学者です。国学とは、仏教や儒教[※]などが日本に伝えられる以前の、日本特有の文化や心のあり方を明らかにしようとする学問です。

保己一は武蔵国児玉郡保木野村（現在の埼玉県本庄市児玉町）で生まれ、七歳のころに病気で失明しました。勉強好きで記憶力のよい保己一は、学問で生きることを決意し、十五歳で江戸に出て、検校とい

う「当道座」（目の不自由な人々による組織）の最高の役職についていた雨富須賀一のもとに弟子入りします。

雨富検校は、当時、目の不自由な人の仕事とされていた三味線や琴、鉦やあんま[※]などを行う人々を監督していました。ところが学問好きの保己一は、その生活になじめません。悩み苦しんだ保己一は、川の淀みに身を投げてしまいました。幸い一命はとりとめたものの、仲間内では「落ちこぼれ」扱いされたのです。

しかし、保己一の望みを知り、その才能を見抜いた雨富検校は、「三年間だけ好きな学問をしてよい」と言って励ましてくれました。人並み意欲を取り戻した保己一は、懸命に勉学に打ち込みました。



▲塙保己一（温故学会蔵）

はずれた記憶力を持つ保己一の噂は広まり、縁が縁を呼んで学者への道が開けていき、やがて大学者として世間から認められるまでになったのです。

保己一は、いったん大きな挫折を経験したことから、その際に自分を支えてくれた師匠の温かさや多くの人々の励まし、その大切さ、大きさに気づきます。そのため彼は、自分に与えられた能力と人生を、自分のためではなく、人々のため、世の中のためにささげることを決心しました。

三十四歳のとき、保己一は各地に散らばる貴重な古書を集めて本にすることを志しました。放っておけば失われてしまう古書の研究こそ、自分のなすべき仕事であり、しかも後世の人々に役立つものだと考えたのです。それから四十年後、七十四歳のときに完成したのが『群書類従』です。『群書類従』は、法律、政治、経済、文学、医学など、あらゆるジャンルの貴重な史料が収められた

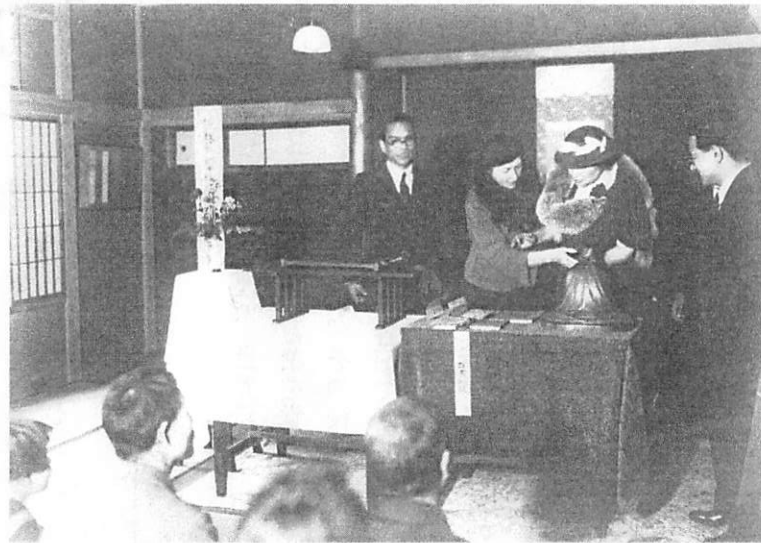
※1ハーバード大学附属のラッドクリフ女子大学。アメリカ合衆国マサチューセッツ州ケンブリッジ市にあった私立女子大学。一九九九年にハーバード大学に併合された。※2儒教。仁を根本とする政治・道徳を説いた孔子を祖とする中国大陸の教え。※3鍼やあんま。鍼は、漢方ではを刺激する治療法。あんまは筋肉を手でもみほぐし、血行を良くして疲労などを除く治療法。※4温故学会。堀保己一の隠れた善行や功績などを広く世間に知らせることを行っている学会。

六百六十六冊におよぶ大全集で、今日でも日本の故事を研究するのに欠かせない書物です。

◆人生の目標となる人◆

昭和十二（一九三七）年四月、日本を初めて訪れたヘレンは「温故学会」を訪問して次のように話しています。

「私がまだ子供のころ、母は『堀先生はあなたの人生の目標となる人です』と話してくれました。きょう、ここを訪問し、先生の像に触れることができたのは、今回の日本訪問でもっとも意義深いものでした。先生の使い古した机と、頭を傾けておられる先生の像に、心からの尊敬を覚えました。先生のお名前は、水が流れるように、永遠に後世に伝えられていくことでしょう」



▲温故学会を訪問するヘレン・ケラー（温故学会蔵）



▲江戸に向かう保己一少年（温故学会蔵）

（参考文献）堀正一「堀保己」とともにヘレン・ケラーと堀保己」はる書房・二〇〇五年／モラロジー研究所「ニューモラル」第四三七〜四三九号・二〇〇六年

道徳教育をすすめる有識者の会編
13歳からの道徳教科書
育鵬社より